

ちょっと遅めの
春の教育講座

「子どものケアと学校づくり 教職員に求められること」

～阪神大震災の経験を宮城のみなさんへ～ 講師:小川嘉憲さん

(兵庫県在住・元中学校理科教員)

【小川さんから寄せられたメッセージより】

- ◆ 阪神大震災の時も1・2ヶ月は『地域みんな被災者、共にがんばろう』とがんばっていたのですが、復旧・復興へと向かう中で、様々な格差など社会の矛盾が一気に噴出してきました。……子どもたちのケアも『心のケア』に矮小化され、医療・健康、生活、文化のケア、フォローが個人任せになってしまい、家族を亡くした子、家も職もなくなった家の子、障害や病気を持った子が置いてけぼりになってしまいました。
- ◆ ほとんど語られていませんが、被災地の教職員の多くは『震災うつ病』など様々な病気になりました。そんなことにならないようにするにはどうしたらよいのでしょうか。わたしの経験を語りたいと思います。
- ◆ 今一番必要なのは、教職員の大幅増員と教職員の現場での裁量権を大幅に認めることです。

＜プログラム＞

- 第1部 (1時間)
・小川さんのお話
- 第2部 (1時間)
・質疑応答
・参加者からのフリートーク



破壊された教室の前に置かれたランドセル (中浜小)

＜気仙沼会場＞

日時:6月25日(土)
13時～15時
会場:松岩小学校

連絡先: 迫支部: 0220-22-2209

＜亘理会場＞

日時:6月26日(日)
10時～12時
会場:逢隈小学校

連絡先: 中央支部: 022-272-5611

参加費無料

＜石巻会場＞

日時:6月24日(金)
18時30分～20時30分
会場:寿司割烹「竹乃浦」(石巻駅近く)

連絡先: 石巻支部: 0225-94-2424

【講師プロフィール】(おがわよしのり)

- ・1944年生まれ 兵庫県で38年間、中学校の理科教員を務める。
 - ・現在 親子科学教室主宰、兵庫民主教育研究所(理事)、全国生活指導研究協議会・科学教育研究協議会会員
 - ・著書 「新たな荒れを子どものゆたかさ」に「輝く笑顔ふたたび」「学びと自治の最前線」「優しい学校はいかがが」など多数
- ※ 1995年1月の阪神・淡路大震災では震度7の激震地の中学校に勤務。被災地の教育の復興と共に被災者の救援と避難所運営にあたる。
- ※ 阪神大震災の経験をもとにした講演や著書が多数。

小川さんは、避難所や学校での子ども対象の企画(かがくあそび)を希望されています。ご希望があればご連絡下さい。

主催:宮城県教職員組合

☎022-234-0141

石巻支部・迫支部・中央支部